

諏訪・岡谷地方の経済概況速報

平成17年6月

(平成17年5月末調査)

平成17年6月14日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

**諏訪信用金庫
経営相談室**

電話 0266(23)4567(代)

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比
有効求人倍率 【4月】	諏訪公共職業安定所管内	1.26 倍	0.10 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.19 倍	0.08 ポイント
手形交換高【5月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	16,581 枚	7.5 %
	金 額	21,507 百万円	12.1 %
うち不渡り発生状況	枚 数	5 枚	41 枚
	金 額	5,077 千円	29,401 千円
車庫証明取扱件数【5月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		1,201 件	6.5 %
新設住宅着工件数(17年4月) (諏訪地方事務所管内)		166 件	16.1 %

概 況

地域の製造業

輸送用機械、産業機械関連企業に高水準の生産を続ける企業がみられるが、デジタル家電、携帯電話など買手市場となっており大手メーカーの新製品開発競争は一段と激しくなっており地域の電機関連や下請企業の中には受注が減少している企業がみられる。

自動車関連下請企業の受注状況は概ね安定しており鋼材の値上がりなどコストに課題を抱えながらも生産活動は高水準のまま横這いとなっているところが多い。

産業機械関連企業の受注状況は横這、減少など区々となっているが開発型企業の受注は増加している。

工作機械は自動車部品やOA機器部品加工および海外出荷向けは順調な生産を続けている。

地域製造業全体では鋼材や原油など原材料費の値上りからコスト対応に苦慮する企業も多く前月に続いて弱含みの足踏み状況となっている。

商業

5月は月間を通じ晴天の日が多く降雨量が少なかった。中旬は平均気温が下がり朝夕肌寒かったことから春物衣料品の売れ行きに影響がみられた。シーズンを迎えた園芸資材や苗ものなど順調な売れ行きであった。「母の日」を迎え売り上げを伸ばした店舗も見られたが小売業総体では平年並みとなっている。(御柱祭の前年比では売り上げは減少している。)

衣料品は、中旬気温の低い日が続き婦人衣料品など影響を受け幾分低調であった。食料品は食肉や輸入果物など売り上げを伸ばした店舗もみられたが総体では横這いとなっている。

電気製品は大型家電店の新規開店があり広範囲からの集客がみられた。パソコン、大型薄型TVは順調な売れ行きをみせた。

ホームセンターは、シーズンを迎えた園芸資材、苗ものなど前年同様の売れ行きをみせた。

観光

行楽シーズンを迎え大型連休は好天に恵まれ湖畔や高原の観光地は入り込み客により賑わいをみせた。

諏訪の旅館・ホテルの宿泊客は区々となっている。修学旅行の確保により宿泊客を伸ばしたところもあり賑わったが総体では御柱祭の前年より幾分下回った模様。日帰り客など前年を上回った。

蓼科・白樺・車山方面の日帰り客は多かったものの宿泊客は旅館により区々となっている。総じては前年を幾分割り込んだ模様。

下諏訪温泉は例年低調な時期となっている。一部旅館は日帰り客が増加しているが、宿泊客は総じて前年を割り込んでいる。

諏訪大社の参拝客は 60,520 人で御柱が行われた昨年比では減少している。

建設業

市町村の 5 月の発注工事は 459 百万円で前年同月比 38 百万円減少した。地元企業への県発注工事は 74 百万円で、前年同月比 37 百万円増加した。県・市町村合わせた 5 月の公共工事の地元企業受注額は、533 百万円で前年同月比 1 百万円減少した。民間工事では、4 月の新設住宅着工件数は 166 戸で前年同月比 23 戸増加した。

16 年 4 月～17 年 3 月の累計戸数は 1,963 戸で前年同期の累計着工戸数に比べ 122 戸増加している。

建築工事は目標の受注を確保したところがみられるが土木工事の受注環境は変わらず依然厳しい状況が続いている。

県の入札方法の変更に戸惑うところが多くみられる。

雇用面

4 月の有効求人倍率は、諏訪公共職業安定所 1.26 倍 岡谷公共職業安定所 1.19 倍で諏訪地域の有効求人倍率は 1.23 倍と長野県の 1.04 倍を上回っている。諏訪職安、岡谷職安合わせた 4 月の新規求人（全数）は 1,591 人で前月より 5 人減少した。製造業からの新規求人は昨年秋以降減少傾向を示しており、人材派遣を含むサービス業からの求人が増えている。

諏訪地域の有効求人倍率は平成 15 年 10 月以降連続して 1 倍を上回っている。

当金庫から見た需資動向に大きな変化はみられない。

業種別動向

1. 電気機器

プリント基板	デジタル家電、携帯電話など機種により生産調整の動きがみられる。受注は弱含みとなっているが技術の高い企業の中には4月以降受注が回復したところもみられる。
コンデンサー	製品の鉛レス対応から小ロット短納期の発注となり幾分生産量が減少している。
プリンター	メーカーのモデルチェンジから受注が減少した下請け企業がみられるが6月以降受注回復を見込んでおり総じては横這い状況となっている。インクカートリッジの生産は堅調に推移している。
コンダクター・リレー	安定した生産状況が続いている。

2. 輸送用機械

自動車	自動車部品は材料費の値上がりから収益性は厳しいものの受注は総じて堅調で高水準の横這い状況の生産を続けているが一部に減少した部品もみられる。
ピストンリング	メーカーは順調な生産を続けており下請企業の受注は幾分増加している。
船外機	外注企業は高水準のまま横這い状況の受注となっている。

3. 一般機械

工作機械	自動車関連企業やOA機器などの部品加工企業および海外出荷の工作機械は堅調な生産を続けている。
専用機・省力機器	専用機械、省力化機械など産業機械は受注が回復し高水準の生産を続けているところもみられる。半導体関連や液晶関連の部品加工の下請企業の受注は減少している。
搬送用機械	生産状況は弱含みの横這い状況を続けておりデジタル家電などの生産調整から新規受注は減少している。
金型	情報機器や音響機器の金型受注は一部企業に高水準のまま横這い状況のところもみられるが減少したところもあり区々となっている。
アルミダイキャスト	自動車部品や電源機器部品に引き続き高水準の生産を続けているところがみられるが、情報機器や液晶関連装置部品などで受注が減少したところもあり企業規模により業況は区々となっている。

4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ	デジタルカメラは競争激化のなか買い手市場となり新製品開発が一層激化している。デジタルカメラの4月の生産台数は494万台で、前月比6.9%の減少、前年同月比2.2%の増となっている。400万画素から600万画素未満の製品の生産台数が349万台と1番多くついで600万
---------	--

画素、400万画素未満となっている。(カメラ映像機器工業会) 地域の下請企業の受注状況は区々で小規模の組立企業に閉鎖を検討しているところもみられる。

- プロジェクター メーカー各社は海外生産の比率を高めており国内生産は減少している。一部に生産調整もみられ下請企業の受注は減少している。
- デジタルミニラボ 機種変更はみられるが引き続き順調な生産状況となっている。
- レンズ レンズ生産は海外が主体となっており、国内のガラスレンズの生産数は減少し、プロジェクターレンズも海外生産が主力となっている。レンズ加工はライフルスコープのレンズを含め総じて減少傾向が続いている。

5. 繊維

- ニット 中国製品など海外製品の輸入増加と春の天候に恵まれず国内ニットメーカーは苦戦している。秋物ニットの生産が始まりホールガーメント(無縫製ニット)の生産は繁忙となっているところが見られる。地域メーカーに新たな地域ブランド商品開発に向けた動きが見られ今後が期待される。

6. 食品

- 寒天 業務用は堅調な売れ行きを示している。健康食品としてTV番組での紹介もあり再度人気が高まり個人消費が急増し商社、問屋からの受注が増加している。
- 味噌 需要がやや減少する時期を迎えており出荷は横這いとなっている。

7. 製材

諏訪地域の4月の木造住宅着工件数は116戸で前月比51戸増加した。(前年同月比15戸増) 地域の木材需要は幾分増加した。合板、耐火ボードの価格は幾分弱含みとなっている。プレカット材の需要期を迎え生産は増加している。

8. 建設

- 公共工事 5月に地元業者が受注した県関係公共工事は、発注機関別では諏訪建設事務所2件、土地改良工事1件、土木工事1件など合わせて4件、契約金額74百万円となっている。17.4月~17.5月の累計契約額は、183百万円で前年5月累計比60百万円の増加。市町村発注工事は、建築工事9件56百万円、土木工事・下水道工事など63件2,665百万円、その他工事22件137百万円で合計94件459百万円で前年5月に比べ38百万円減少した。
- 民間工事 4月の新設住宅着工件数は116戸で前年4月比23戸増加した。建築工事に動きが見られるが土木工事は低調に推移している。

9. 商業

諏訪地方の5月の天候は晴天が続き降雨量が少なかった。中旬は平均気温が下がり朝夕は肌寒い日が続くなど衣料品の売れ行きに影響が見られた。シーズンを迎えた園芸資材や苗ものなど季節商品の売れ行きは好調だった。「母の日」を迎え売り上げを伸ばした商品がみられた。小売業全体としては弱含みの横這い状況となっている。

衣 料 中旬は気温の低い日が続いたこともあり婦人衣料品など春の衣料品は売れ行きは低調であった。「母の日」を迎えプレゼント商品は前年を上回る売れ行きであった。

食 料 品 惣菜は順調な売れ行きをみせ生鮮三品では食肉、輸入果物は売り上げを伸ばし野菜は横這い状況となっている。鮮魚は刺身を除き低調となっている。

電 気 機 器 大型家電店の新規出店があり既存店舗は影響を受けた。パソコン、薄型大型TVは前月に続き堅調な売れ行きをみせている。

自 動 車 諏訪・岡谷を合わせた5月の車庫証明件数(軽自動車除く)は1,201台で、前月比114台減少した。前年同月比では6.5%の増加となった。軽自動車の人気は高く、中古車に動きがみられたが高級車の売れ行きはやや低調となっている。

ホームセンター 園芸資材や苗ものなど季節商品の売れ行きは順調であった。好天に恵まれ総体の売り上げは前年を上回った模様。

デパート リニューアル後の「まるみつ百貨店」は夫婦同伴や子供連れなど客層が拡がり衣料品など売り上げを伸ばしている。

10. 観光

行楽シーズンを迎え大型連休は好天に恵まれ湖畔や高原の観光地はいずれも大変な賑わいをみせた。

上諏訪温泉 旅館・ホテルにより宿泊客は増加減少区々となっている。修学旅行の受け入れにより賑わったホテルも見られたが総体では御柱祭の前年を割り込んでいる。

蓼科・白樺湖・車山 大型連休は入り込み客で大変な賑わいをみせたが日帰り客が多かった。宿泊客は施設により区々となっており総じては前年を下回っている。リフトなど観光施設は入り込み客が多く時間待ちの客が見られた。

下諏訪温泉 日帰り客が増加しているところがみられる。宿泊客は総体では御柱祭の前年よりは減少している。

諏訪大社 上社・下社の参拝客数は60,520人で前月より9,115人増加した。

トピックス

最近の長野県経済の動向

(2005年6月8日) 日本銀行松本支店

2005年4月の主要経済統計および企業ヒアリングを中心に取りまとめ。

長野県経済は、全体として回復に向けた地合いを維持しつつも、足踏み状態が続いている。

足許の最終需要の動向をみると、**設備投資**は、前年を上回る計画となっているほか、**住宅投資**も前年を上回った。**個人消費**は、全体として盛り上がりにかける中で、食料品、耐久消費財の販売は底堅く推移している。一方、**輸出**は増勢が鈍化しており、**公共投資**は減少基調が続いている。

以上のような最終需要の下で、生産は、需要好調な自動車・産業機械向けの生産は高水準を続けている一方、デジタル家電向けを中心とするIT関連財の生産は下げ止まっているものの、なお持ち直すまでには至っていない。このため、全体としては依然足踏み状態を脱していない。こうした中、雇用面をみると、有効求人倍率が前月比上昇するなど改善傾向を辿っている。また、所得面は、生産の足踏み感により所定外給与が減少しているものの、全体としては持ち直し傾向にある。

個別業界の動向

(生産)

半導体関連では、デジタル家電向けの在庫調整が進捗する中で、シリコンウェハーの生産は幾分回復した一方、リードフレーム、半導体素子の生産は、横這い圏内の動きとなっている。

電子部品では、コンデンサ、抵抗器の生産は、デジタル家電向けの在庫調整が進捗している中で、横這い圏内での推移となっている。モーターの生産は、海外メーカーとの価格競争や海外への生産移管の影響により低調に推移している。

情報機器では、プリンターは、フォト機能を充実させた製品の販売好調を背景に、堅調な生産が続いている。県内生産分のパソコン(ノートブック型)は、輸出向けを中心に増加している。一方、デジタルカメラは、販売の伸び悩みを受けて、生産を減少させている。

自動車部品は、新型車投入効果がみられる国内向けとともに、海外向けも堅調なことから、高水準の生産を続けている。

工作機械は、国内外の自動車メーカーや海外の情報関連機器メーカー向けを中心に、増加基調を持続している。

味噌の出荷は幾分減少し、**清酒**も低調な地合い。

(個人消費)

県内大型小売店(百貨店、スーパー)売り上げ高(当店調べ<店舗調整前>)をみると、衣料品の販売は、不振が続いたものの、ウエイトの高い食料品の販売が底堅く推移していることから、全体では引き続き前年を上回った。

家電販売は、デジタル家電や白物家電の好調に加え、空気清浄器などの花粉症対策関連商品や新機種携帯電話の販売も増加したことから、全体では堅調な販売が続いている。

自動車販売をみると、5月は新型車投入効果等により小型車、普通車、軽四輪とも前年を上回ったことから、全体では7ヶ月連続で前年比プラスとなった。

(建設)

県内建設関連企業における**民間工事新規受注額**は、一般企業の設備投資案件やマンション建築の増加から、引き続き高水準となった。

公共工事請負額は、県発注分は災害復旧関連工事により増加したものの、国発注分が昨年の大型工事発注の反動減もあり大幅に減少したことから、全体では前年を下回った。

住宅着工戸数は、貸家の増加を主因に、前年を上回った。